

1. 開催趣旨

気候変動による水災害の激甚化・頻発化に備え、河川整備等のハード対策に加え、あらゆる関係者が協働して流域全体で水害を軽減させる治水対策「流域治水」を推進する必要があります。

「流域治水」のさらなる推進に向け、今後、必要な治水対策についてのパネルディスカッションを行うとともに、地域住民の方々に理解を深めていただくため、シンポジウムを開催しました。

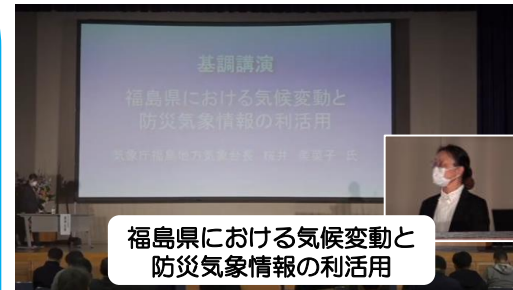
2. 開催概要

日時：令和4年11月27日（日）
場所：相馬市総合福祉センター（相馬市）
主催：福島県、宇多川・小泉川流域治水協議会
新田川流域治水協議会

3. 講演内容

- 基調講演
『2級河川における流域治水とは』
長林久夫（日本大学名誉教授）
- 基調講演
『福島県における気候変動と防災気象情報の利活用』
桜井美菜子（気象庁福島地方気象台長）
- 講演
『マイ避難の取組について』
福島県危機管理課
- パネルディスカッション
『相双方部のこれからの流域治水の推進に向けて』
コーディネーター：長林久夫（日本大学名誉教授）
パネリスト：阿部勝弘（相馬市副市長）
桜井美菜子（気象庁福島地方気象台長）
丸山和基（国土交通省福島河川国道事務所長）
横山和雄（相馬市消防団第2分団）
益子公司（福島県土木部技監）

4. 講演状況



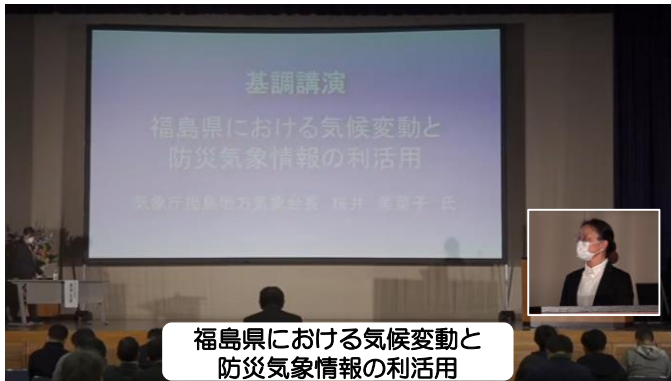


2級河川における流域治水とは

流域治水は最大規模までの災害を対象としています。

小流域の流出抑制対策は限られてくるので、地域資源を生かす流出抑制と、地域特性を生かす被害軽減対策が必要である。特に、まちづくりや人づくりに期待したい。

30年先の減災まちづくりの推進計画となるように住民の方が中心になって動くことが、オーダーメイドの流域治水になると考えます。



福島県における気候変動と防災気象情報の利活用

気候変動、地球温暖化に伴う気候の変化というものは、すでに始まっています。それは福島県も相双地域も同じです。リスクの高い時代に生きているというふうな認識で、備えていきたいというふうに思います。そして、過去の経験にとらわれるのではなく、大雨時などには、ぜひ、最新の防災気象情報をご利用いただきたいと思います。

特にキキクル、地図上に危険度を分布いたしますので、これを活用していただいて、皆さんの避難に関するいろいろな行動の判断にお使いいただいて、少しでも命を守る行動につながっていければというふうに思っております。



マイ避難の取組について

災害が発生した際、まず一番大事なことは、自分の命を守ることでございます。ぜひ、各世帯で、事前にマイ避難を考えていただいて、災害に備えてくださいということをお伝えいたします。

ぜひ、ご帰宅後にマイ避難ノートを読み返していただき、シートを作成しまして、日頃からの備えに役立てていただければと思います。



パネルディスカッション

相双方部のこれからの流域治水の推進に向けて

1点は流域治水の展開の見える化を図ることが大事だろうということでございます。取組の進展に合わせて、どこまで安全なのかということを見える化することが住民の方の理解につながるだろうというふうに考えております。

2点目は、流域治水は想定最大規模レベルの災害までを対象とするので、安全確保が最も重要で、マイ避難の取組、マイタイムラインを家庭のみならず、学校や職場、事業所単位で作ることが非常に重要です。

3点目は、ただ作るだけじゃなくて、継続的な取組を行えるようなサポート体制をうまくつくっていくということが重要であろうというふうに考えております。

流域治水は30年先の減災まちづくりの推進計画というふうに考えると、住民が施策の中心にあって初めて展開可能だろうというふうに考えます。それが地域のオーダーメイドの流域治水となるのではないのでしょうか。